

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	高森町教育委員会
研究課題	○高森町新教育プランの推進～高森に誇りを持ち、夢を抱き、元気の出る教育～
研究のねらい	<p>人口減少に伴う地域の活力の衰退、学校の適正規模の維持、教育の質の維持向上等の課題解決に向けて本町では、「高森町新教育プラン」を策定した。その中心施策は、「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育・ふるさと教育」である。実践研究では、教育委員会と首長部局、関係機関が協働した協議体を設置し、以下の4つの視点で研究を展開する。</p> <p>(1) コミュニティ・スクールの充実 (2) 小中一貫教育の導入推進 (3) ふるさと教育の推進 (4) 教育環境の整備</p>
研究の概要	<p>※取組の内容について、具体的に要点をまとめて記入してください。</p> <p>①協議体「高森町新教育プラン推進協議会」の設置及び「高森町新教育プラン推進フォーラム」の実施</p> <p>本実践研究の母体として、高森町教育委員会と高森町首長部局及び関係機関からなる「高森町新教育プラン推進協議会」を設置し、協議及び連携を図る。また、公教育の未来の姿としてのコミュニティ・スクールや小中一貫教育の展開を示す「高森町新教育プラン推進フォーラム」を開催する。</p> <p>②コミュニティ・スクールの充実</p> <p>中学校区ごとに設立している学校運営協議会（高森東学園、高森中央学園）の取り組みを首長部局やNPO法人、関係機関とともに推進し、各中学校区の特色を生かし、地域とともにある学校づくりを推進する。また、「全国コミュニティ・スクール研究大会」や「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加し、コミュニティ・スクールの今後について学習を進める。</p> <p>③小中一貫教育の導入</p> <p>小学校における英語教育の充実をさらに進め、小学校から高等学校までの一貫した英語教育カリキュラムの作成に取り組む。</p> <p>④ふるさと教育の推進</p> <p>町内教職員からなる「高森町教育研究会」において、小学校社会科副読本「私たちの高森町」及び小中学校道徳教育副読本「高森の心」の有効な活用のあり方を検討する。学校でも全学年で「高森の心」を使った道徳の授業を実施する。</p> <p>⑤教育環境の整備</p> <p>教育の情報化について、町内の全普通教室に設置した電子黒板や1人1台の利用が可能なタブレットPC等の環境を有効に活用するため、地域の実情をよく知るICT支援員の活用や高森町教育研究会による研究をさらに進める。</p> <p>地域の支援のもと、学校・家庭・地域連携推進事業による放課後及び土曜日の活動をさらに充実させる。</p>

<p>研究の成果</p>	<p>①協議体「高森町新教育プラン推進協議会」の設置及び「高森町新教育プラン推進フォーラム」の実施  「高森町新教育プラン推進協議会」の設置により、これまで町行政当局や教育委員会主導で行ってきた施策を学校運営協議会や学校支援地域本部、さらには各学校PTAとの協働で行うことができた。  「高森町新教育プラン推進フォーラム」の実施により、高森町新教育プランを広く家庭や地域に啓発できた。</p> <p>②コミュニティ・スクールの充実  各学校運営協議会を核として、小・中学校と地域との連携や組織づくりが形作られ、小中一貫教育への流れが促進された。また、学校運営協議会委員と教職員との意見交換やコミュニティ・スクール便りの発行など、学校運営協議会ごとの特色が見えるようになった。</p> <p>③小中一貫教育の導入  小中のみならず、高等学校を含めた一貫教育に取り組むことで、町を挙げてのグローバル人材育成に向けての流れが形作られつつある。</p> <p>④ふるさと教育の推進  多くの町民から小中学校道徳教育副読本「高森の心」についての問い合わせがあり、家庭地域の公教育に対する負託が高まった。同時に児童生徒への地域の自尊感情も高まりつつある。</p> <p>⑤教育環境の整備  学校や地域の実情をよく知る人材の活用によって、校務等の情報化が進展し、授業のみならず、教育活動全般においてICTの活用が進んでいる。</p>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>※高森町教育委員会事務局 学校教育係 TEL:0967-62-0227 FAX:0967-62-2685  E-mail:kaz-htkt@town.kumamoto-takamori.lg.jp</p>

※MS ゴシック、11P で作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	熊本県 山鹿市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 たくましくさやけく生きる菊鹿学園の創造 ～首長部局等との熟議・協働・マネジメントによる菊鹿中コミュニティ・スク ールを中核として充実・発展～
研究のねらい	※要点をまとめ、簡潔に記入してください。 コミュニティ・スクールとしての取組を充実・発展・安定させるために、首長部 局等との協働による学校支援体制をどのように構築し、どのような実践をしてい けばよいのか研究する。
研究の概要	<p>※取組の内容について、具体的に要点をまとめて記入してください。</p> <p><b>【実践例】</b></p> <p>○環境講話及び資源回収の実施 生徒に、ごみ分別の意義を理解させるとともに、資源ごみと環境の関わりやり サイクルの重要性について理解を深めることを目的として、山鹿市市民部環境 課との協働による環境講話及び資源回収を実施した。環境課との協議を6月1 2日と6月26日に実施した。その後、7月1日に環境講話（50分）を実施 した。さらに、8月2日の早朝から午前中にかけて資源回収を実施し、約53 万円の収益を上げた。</p> <p>○防災講話の実施 生徒に、災害発生時に地域で連携協力することの重要性を理解させるとともに、 自他の安全確保への意識付けを図ることを目的として、山鹿市総務部防災対策 課との協働による防災講話を実施した。防災対策課との協議を6月18日と7 月9日に実施した。その後、7月13日に防災講話（65分）を実施した。</p> <p>○きくか夏まつりへの参加 生徒が地域の夏祭りに浴衣を着た踊り手として参加することを通して、生徒に 地域貢献する態度を育てることを目的として、山鹿市市民部菊鹿市民センター との協働による夏祭りでの踊りの練習会を実施した。菊鹿市民センターとの協 議を6月30日に実施し、7月16日と7月17日に地域の方を講師に招聘し ての踊り練習会を実施した。これを受けて、8月1日に行われた「きくか夏ま つり」において、浴衣を着た女子生徒が菊鹿音頭と山鹿灯笼踊りを披露した。 なお、浴衣の着付けに関しては、7月10日に地域の方を講師に招聘し着付け 教室を実施した。</p> <p>○子ども認知症サポーター養成講座の実施 生徒自身に地域住民のひとりであることを認識させるとともに、安心安全の里 づくりに貢献する態度を養う取組として、山鹿市福祉部長寿支援課や社会福祉 協議会と連携しながら、生徒向けの子ども認知症サポーター養成講座（12月 1日）を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="363 1464 715 1697" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="719 1464 1070 1697" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1075 1464 1437 1697" data-label="Image"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div data-bbox="472 1704 580 1733" data-label="Caption">環境講話</div> <div data-bbox="847 1704 957 1733" data-label="Caption">資源回収</div> <div data-bbox="1098 1704 1426 1733" data-label="Caption">認知症サポーター養成講座</div> </div> <p><b>【情報発信・啓発】</b></p> <p>○コミュニティ通信の発行・配布 コミュニティ・スクールの取組の情報を、6月、9月、11月、2月にコミュ ニティ通信として地域及び保護者・地域住民等に発信し、学校がコミュニティ・ センター的役割を担っていく立場にあることを啓発した。</p> <p>○パンフレットの発行・配布 コミュニティ・スクールの取組の概要や成果等をパンフレットにまとめ、地域 及び保護者・地域住民等に発信し、コミュニティ・スクールの理解と啓発を図 った。</p>

	<p>【研修・視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公開研修会の実施 「菊鹿中コミュニティ・スクールのおゆみとこれからの展望」と題して、阿蘇品康宏CSマイスターによる講話及び質疑応答を行った。</li> <li>○研修会等への参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>①2015年全国コミュニティ・スクール研究大会 in 新潟に参加</li> <li>②地域とともにある学校づくり推進フォーラム（愛知）に参加</li> <li>③熊本県高森町新教育プラン推進フォーラムに参加</li> <li>④地域とともにある学校づくり推進フォーラム（熊本）にて発表</li> <li>⑤地域とともにある学校づくり推進フォーラム（山口）に参加</li> </ul> </li> <li>○視察研修等の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> <li>①高知県津野町教育委員会及び学校関係者</li> <li>②愛知県豊川市教育委員会</li> <li>③熊本県南阿蘇村教育委員会及び南阿蘇村立学校運営協議会</li> <li>④熊本県人吉市教育委員会</li> </ul> </li> </ul>
<p>研究の成果</p>	<p>※要点をまとめ具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会の委員に意見やアドバイスをいただきながら、首長部局等との新たな取組や、昨年度までの取組を工夫・改善した発展型の取組ができた。</li> <li>○市民部環境課や総務部防災対策課等、新たな部局との連携ができた。</li> <li>○福祉部長寿支援課や市民部菊鹿市民センター等、これまでも連携していた部局とはより計画的・組織的に連携を発展させることができた。</li> <li>○首長部局等と協働した取組を通して、当局側も学校教育へ大きく期待していることや、協力体制を整えていきたい思いがあることが見えてきた。</li> <li>○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒や、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる生徒が増えつつある。</li> <li>○生徒は、少子高齢化が進む地域の現状を理解したり、地域住民として社会に参画する意識が高揚したりするとともに、認知症患者へのサポートなど社会的な実践力も身に付けつつある。</li> <li>○コミュニティ・スクールの取組の情報をコミュニティ通信やホームページで発信することで、本校がコミュニティ・スクールであることや、地域とともにある学校をめざしていることが保護者や地域に理解されてきている。さらには県内外からの視察等もある。</li> <li>○本校の学校運営協議会に南阿蘇村立学校運営協議会委員が参加する機会を得ることができ、情報交換することができた。</li> <li>○研修会の実施や、研究大会等への参加及びその報告を聞くことは、職員及び学校運営協議会運営委員がコミュニティ・スクール推進の方向性などを学ぶ機会となっている。</li> <li>○地域とともにある学校づくり推進フォーラム（熊本）で取組の概要を発表することができ、県内外への大きな啓発の機会となった。</li> <li>○各種機関や地域人材の専門性をいかした教育活動の実施により、本校職員の負担軽減につながっている。</li> </ul>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>山鹿市教育委員会 教育総務課 TEL 0968-43-1391 FAX 0968-43-1218F Email: ksoh@city.yamaga.lg.jp</p>

※MS ゴシック、11P で作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	北海道富良野市教育委員会
研究課題	地域の豊かな大学資産を活用した特色ある教育環境づくり～東京大学北海道演習林の教育的利活用に向けた学習プログラムの作成～
研究のねらい	<p>本市域の 1/3 を占める東京大学北海道演習林は北方林学と森林生態系の試験研究施設として内外で高く評価されており、これは未来を担う子どもたちの教育の場として大きな可能性のある地域資源である。</p> <p>環境教育の推進にあたっては、何をどのように教えたらいいのかははっきりしていないところがあり、このため現状の教科内容において環境教育をどう位置づけて進めるか課題となっている。地域資源を教育に活用するための学習プログラムを首長部局並びに関係機関・団体との協働により作成し、地域の特色を生かした森林環境教育を市内の小中学校を対象に推進する。</p>
研究の概要	<p>① 森林学習プログラムの内容と教材等の検討</p> <p>森林学習プログラムを構築する前に、子どもたちが森の中でどう感じ、またどのような体験によって学習意欲や自発的な行動が湧いてくるのかリサーチし、その結果をプログラムの基本的理念に反映させることを目的として、小中学生の親子をはじめ 20 代の若者からシニア世代まで幅広い年代の会員を持つ市民団体と協働で、森林や生き物に親しむ実験的な活動を実施した。なおこの場では③と関連し、ガイド候補者の調査や声かけも行った。</p> <p>また来年度のプログラム構築の準備として、児童の発達段階や学習単元に対応した学習目標を検討するとともに、プログラム試案を作成し教材の開発も行った。</p> <p>② 協議体の設置と会議の開催</p> <p>本事業運営を行う上で意見交換を行い、事業改善に繋げるための機関として、本年 2 月に協議体「東大演習林・森林学習プログラム推進事業検討会議」を首長部局の経済部農林課、総務部市民環境課、山部支所の協力を得て設置した。協議体の構成員は、教育委員会、首長部局の林務および環境保全を担う担当課等、学校関係者、モデル指定校の小中学校、東京大学北海道演習林、教育学を専門とする大学・研究者、演習林や地域の自然環境に精通した市民団体である。</p> <p>③ ガイドの発掘とワークショップの開催</p> <p>東京大学北海道演習林に精通した退職者、当館既知の協力者、首長部局の市民環境課が所管するふらの市民環境会議の会員等に個別に声かけを行い、また地元新聞社の協力をもらい、その宣伝で集まった方々でワークショップを開催した。ワークショップでは本事業の課題を抽出してその解決策を探るとともに、学びたいことを列挙してもらい、来年度の研修内容について具体的な検討を行った。</p>

① ガイドのあり方と学習プログラムの基本的精神

連携団体との活動と意見交換（反省会）を通じて、「大人が楽しそうに話したり、作ったりすることで子どもは興味が湧く」「大人が出しゃばらず、子どもが困ったときに手助けし、待つことが大切」「多様な世代が関わるのが大切」「繰り返し取り組んで子どもたちの気が付きと成長を促す」「学習内容を貫くストーリーが大切」などの意見が出され、取り組みの際の留意点を共有できた。こうした観点から、ガイドの人物像は自然や生き物に詳しいだけでなく、子どもたちを受け止め体験や学びを共有できる人物であることが何より重要であるという結論が導かれた。ここで得られた意見や感想は当たり前のようにも思えるが、今後のプログラム構築と実際の運用にとって、根っことなるべき重要な視点であり、来年度以降の活動や体制づくりに役立てたい。

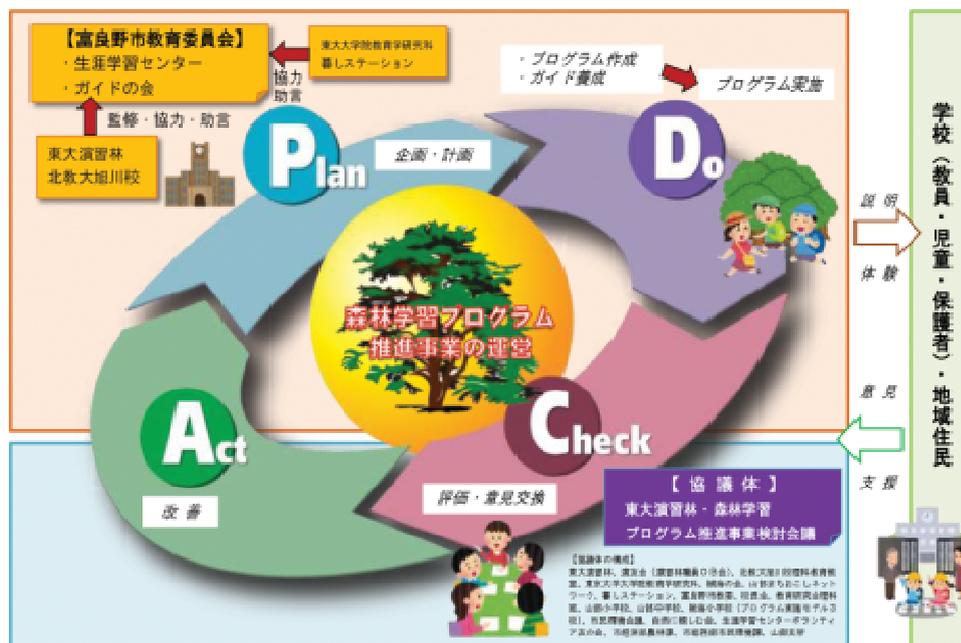
② 森林学習プログラムの試案と教材開発

森林学習プログラムの試案（別紙）と併用して使うことができそうな教材の洗い出しと開発を行い、来年度協力していただける北海道教育大学旭川校理科教育教室に提案する準備を整えた。

③ 協議体「東大演習林・森林学習プログラム推進事業検討会議」の設置

首長部局の経済部農林課と総務部市民環境課、山部支所の協力を得て協議体を設置して事業の概要説明と意見交換を行い、来年度の事業運営に関する方向性と課題を共有することができた。下図は実施主体である生涯学習センターならびに協力機関・団体と協議体との関係やその役割を示したものである。

研究の成果



④ 森林学習ガイドの発掘

ガイド候補者 12 名を発掘・登録することができ、ワークショップの開催によって課題とその解決策を共有し、研修会の方向性を見出すことができた。

本件

北海道富良野市教育委員会生涯学習センター

問い合わせ先

TEL:0167-42-2407 FAX:0167-42-2313 E-mail: furano@nb.sub.jp

※MS ゴシック、11P で作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2 枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

<p>教育委員会名</p>	<p>由利本荘市教育委員会</p>																									
<p>研究課題</p>	<p>＜首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業＞ ふるさと教育を基底に、豊かな心とふるさと愛にあふれる子どもを育成する ～コミュニティ・スクールの活性化による市の未来を託せる人材の育成～</p>																									
<p>研究のねらい</p>	<p>本市では今年度より、由利本荘市総合計画「新創造ビジョン」として「人と自然が共生する躍動と創造の都市（まち）」づくりをまちの将来像として掲げ、「新たな事業や研究に挑戦できる地域」や「生きがいあふれる地域」などの地域価値の創造に向けてまちづくりを進めている。これらの地域価値を創造していくためには、まちの将来を担う子ども達の義務教育段階での学びが大変重要なものとなる。そこで、本市の学校教育の目標は「すべての子どもが夢と志をもち、実現に向けて笑顔で生き生き輝く姿に」を指して、今年度よりすべての小・中学校をコミュニティ・スクールとして指定し、学校ごとの学校運営協議会、中学校区ごとの地域運営協議会、圏域全体の市学校運営協議会を立ち上げ、地域住民が参画する学校づくり、地域とともにある学校づくりに向けて取り組んでいる。学校と地域が同じ目標の下で、それぞれの情報を共有し、共通理解を図りながら、学校教育の実施主体である由利本荘市教育委員会と由利本荘市市長部局（首長部局）及び関係機関等が連携してコミュニティ・スクールを活性化させ、以下の3つの目標を掲げて、ふるさとの未来を託せる人材の育成に向けて取り組んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の行事に参加する子どもを増やす（地域の良さを知る）</li> <li>2 地域で起こっている問題や出来事に関心をもつ子どもを増やす（地域の課題に目を向ける）</li> <li>3 地域や社会をよくするために何をすべきか考える子どもを増やす（地域の未来を考える）※要点をまとめ、簡潔に記入してください。</li> </ol> <p>【由利本荘市の現状：地域の課題】      【由利本荘市の事業計画の概要】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="430 1075 853 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>由利本荘市の現状</b></p> <p>◎地域の課題：人口減少が進み、地域の継承が課題となっている</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>人口</th> <th>出生数</th> <th>死亡数</th> <th>自然増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成17年度</td> <td>89,555</td> <td>28,564</td> <td>4,802</td> <td>2,625</td> </tr> <tr> <td>平成22年度</td> <td>85,229</td> <td>28,648</td> <td>4,184</td> <td>2,316</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>82,217</td> <td>30,504</td> <td>3,692</td> <td>2,077</td> </tr> <tr> <td>H26-H17</td> <td>△7,338</td> <td>1,940</td> <td>△1,110</td> <td>△548</td> </tr> </tbody> </table> <p>△1,110 △1,658</p> <p>※自然増減は人口のみ      ※自然増減は出生のみ</p> <p style="text-align: center; background-color: #e0ffe0; padding: 5px;"><b>最大テーマ：少子化に歯止めをかける</b></p> <p>◎産業集積の強靱化と雇用創出 ◎子どもを産み育てやすい環境の創造 ◎生きがいあふれる健康長寿社会の形成 ◎ふるさと愛の醸成と地域コミュニティの再生</p> </div> <div data-bbox="957 1075 1396 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>由利本荘市の事業計画の概要</b></p> <p>◎研究課題 ○ふるさと教育を基底に、豊かな心とふるさと愛にあふれる子どもを育成する ～コミュニティ・スクールの活性化による市の未来を託せる人材の育成～</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">由利本荘市：小学校15校、中学校10校</p> <p style="text-align: center;">【地域と学校が一体となって子どもの育成を図る】</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffe0e0; padding: 5px;">全ての子どもが夢と志をもち、実現に向けて笑顔で生き生き輝く姿をめざして</p> <p style="text-align: center; background-color: #e0e0ff; padding: 5px;">コミュニティ・スクールの活性化 ＜首長部局・関係機関・地域・教育委員会が連携して＞</p> <p>◎目 1. 地域の行事に参加する子どもを増やす 2. 地域で起こっている問題や出来事に関心をもつ子どもを増やす（地域の課題に目を向ける） 3. 地域や社会をよくするために何をすべきか考える子どもを増やす（地域の未来を考える）</p> </div> </div>	年次	人口	出生数	死亡数	自然増減	平成17年度	89,555	28,564	4,802	2,625	平成22年度	85,229	28,648	4,184	2,316	平成26年度	82,217	30,504	3,692	2,077	H26-H17	△7,338	1,940	△1,110	△548
年次	人口	出生数	死亡数	自然増減																						
平成17年度	89,555	28,564	4,802	2,625																						
平成22年度	85,229	28,648	4,184	2,316																						
平成26年度	82,217	30,504	3,692	2,077																						
H26-H17	△7,338	1,940	△1,110	△548																						
<p>研究の概要</p>	<p>① 協働コーディネーター配置による首長部局との連携</p> <p>ア 平成27年10月より、本事業の事務局員として協働コーディネーターを配置。教育委員会、首長部局、関係機関と学校との連絡調整を行い、学校運営協議会や地域運営協議会の事業計画に基づく取組の推進に貢献。</p> <p>○業務内容</p> <p>説明資料の作成、市役所各部・課の訪問事業説明、各学校への訪問事業説明、各教育学習課・公民館への訪問事業説明、市CS総合会議での報告、説明、市CS連絡協議会での報告・説明、学ぶんチャレンジプログラムの作成</p> <p>イ 各学校運営協議会、地域運営協議会、市CS連絡協議会、市CS総合会議の運営に関する連絡調整や記録、広報等 各会議の企画立案、公民館によるCSだよりの発行推進、地域行事調査等、市役所及び各総合支所、公民館のCSコーナー設置、各学校に地域行事等を紹介する公民館だよりを掲示する地域ボード（学ぶんボード）設置</p> <div style="text-align: right;">  <p>【公民館のCSコーナー】</p> </div>																									

	<p>ウ 児童生徒の実態把握のためのアンケート調査を小学校4年生から中学校3年生児童生徒約4,000人を対象に2回実施。調査結果を集計し、教育委員会内で分析した結果を、市CS総合会議、市CS連絡協議会等に提示。首長部局や関係機関、各学校運営協議会、地域運営協議会等で検証改善。 ○ねらい:本市の児童生徒の地域関心度について明らかにするとともに、地域の課題解決に向けた具体的・実践的な取り組みにつなげる。</p> <p>② 各学校、各中学校区の実践の充実 ・それぞれの学校、中学校区ごとに地域の伝統行事の継承やボランティア活動の実施など、地域との協力の下で首長部局や関係機関との連携により地域色を生かした特色ある学校づくりが展開。</p>  <p>【独居老人宅雪寄せボランティア】</p> <p>③市教育委員会の取組の充実 ・市全体の取組について、まちづくり協議会、社会教育委員の会、市PTA連合会、市校長会等、関係機関から意見や提案を受ける市CS総合会議を開催し、事業の改善を図る。</p> <p>&lt;事前部長調整会議&gt; ○期 日:平成27年11月18日(水) ○内 容:事業内容、市CS総合会議設立について協議 ○参加者:(首長部局)各部長 (教育委員会事務局)</p> <p>&lt;第1回市CS総合会議&gt; ○期 日:平成27年12月22日(火) ○内 容:事業内容及び児童生徒の地域関心度調査結果説明、協議 ○参加者:市まちづくり協議会会長、社会教育委員の会会長、市PTA連合会会長、校長会会長、市CS連絡協議会会長、市CS連絡協議会副会長、各地域運営協議会会長(首長部局)(教育委員会)</p>  <p>【第1回市CS総合会議】</p> <p>&lt;第2回市CS総合会議&gt; ○期 日:平成28年2月22日(月) ○内 容:調査結果について、提案型ディスカッション</p>
<p>研究の成果</p>	<p>① 協働コーディネーターの配置により、学校、地域、首長部局、教育委員会が「市の未来を託せる人材育成」という同じ目標の下で、市全体の課題を明確にして、解決すべき方向性についてそれぞれの情報を共有し、共通理解を図りながら、具体的な方策を打ち出すことができた。</p> <p>② 協働コーディネーターが、学校と公民館等に足を運び、各学校運営協議会、地域運営協議会、市CS連絡協議会、市CS総合会議の運営に関する連絡調整や記録、広報等を行ったことにより、学校情報と地域情報の共有化が図られた。特に、各公民館に設置された「コミュニティ・スクールコーナー」や学校に設置された「学ぶんボード」などにより、公民館だよりや地域情報等、地域の動きを学校に知らせるなど、共通理解が図られた。</p> <p>③ 児童生徒の地域関心度調査を小学校4年生から中学校3年生までを対象に、11月と1月に実施したことにより、子ども達の実態が明らかになり、学校ごと、地域ごと、市全体の解決の方向性が具体的になった。</p> <p>④ 「市CS総合会議」の開催により、これまで成人を中心に考えられてきたまちづくりから、20年後、50年後の市の未来を考え、子どもの教育を含めたまちづくりが必要であることが再確認された。特に2回目の会議では「地域の多様な資源を生かした質の高い課題解決型教育に取り組むために今できること」というテーマで提案型ディスカッションを行ったが、幅広い分野から様々な提案が出され、今後の活動計画に生かすことができた。</p>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>由利本荘市教育委員会 学校教育課 〒018-0692 秋田県由利本荘市西目町沼田字弁天前 40-61 TEL:0184-32-1310 FAX:0184-33-3741 E-mail:gakko@city.yurihonjo.akita.jp</p>